

わたしのまちづくり わたしのまちづくり

経営相談所機能を活用した地域活性化への貢献 ～地域への思いやこだわり、連携を大切に～

飯田信用金庫 経営相談所 所長 林 郁夫

I. 当金庫の営業地域の概要

当金庫の営業地域は、長野県南部に位置する飯田市を中心とした飯田下伊那地域で、総面積のうち耕地はわずか 5% といった中山間地です。天竜川が地域の中央部を流れ、豊かな自然と優れた景観、四季の変化に富み暮らしやすい気候に恵まれていますが、人口は 17 万 5,523 人（2005 年国勢調査）で、「人口減少」と「高齢化」問題を抱える地域です。

一方、合計特殊出生率が高い町村が多く、子供を生みやすく育てやすい環境がありますが、およそ 80% は大学等への進学などにより地域外に流出してしまっているのが現状です。若者がふるさとにどうやったら帰ってこられるのか、その体制づくりが地域の大きな課題となっています。

当金庫の地域内シェアは、預金、貸金ともに 60% 前後と高く、これは、狭域高密度経営の賜といえますが、それだけに信用金庫と地域とは運命共同体という色彩が強いともいえます。

II. 経営相談所の業務について

当金庫の経営相談所は、昭和 57 年に設立しました。設立当初は、相談業務（法律相談、経営税務相談）と調査業務（産業経済動向の発刊）が中心でした。

現在の業務はこれらに加え、講演活動



（飯田長姫高校商業科で教える林さん）



（飯田市の位置）

や地域紙への寄稿等を通じた情報発信、ビジネスフェアや他地域で開催されるビジネス交流会への出展勧奨などのビジネスマッチングの機会の創出、行政機関・経済団体等との連携といった面に広がっています。

(1) 情報提供機能と講演活動

毎月、調査誌として「飯伊地区産業経済動向」を発刊していますが、この調査結果等をもとに、地域の産業経済の動向についての講演活動を年間平均 20～30 件ほど実施しています。

SYMS（しんきん若手経営者の会）の各支部での勉強会、各支店の後援団体、業界団体等の地域経済団体、商工会議所、商工会など多岐にわたり、最近では、商業塾や、県立高等学校商業科などから、新規創業や経営革新等に関するテーマでの講演も増えてきています。

また、地域紙に月 1 回、「しんきん羅針盤」と銘打ち、最近の経済や経営のキーワードを紹介する記事を提供しています。

(2) ビジネスマッチングの機会の創出

2005～2007 年まで、飯田信用金庫主催による飯田下伊那ビジネスフェアを開催しました。

その後は、他地域で開催されるビジネス交流会等への積極的な出展勧奨により、引き続きビジネスマッチングの機会を創出しています。

また、飯田商工会議所との共催により、「食」を中心とした物産展「南信州グルメサミット」を開催しています。ビジネスフェアを開催していく過程で、協働していただいた飯田商工会議所や飯田市役所等の関係機関とのつながりが強化され、その後の様々な地域活性化への取り組みに対する連携の礎ともなっています。

(3) 行政機関・経済団体等との連携、参画

行政機関が組織する、地域づくりや地域経済の活性化に関する委員会などへの参画要請も多くなっています。

飯田市が地域経済活性化に関して組織する地域経済活性化プログラム評価委員会、地域経済研究連絡会などに協力しています。

また、昼神温泉活性化協議会、阿智村商工会調査研究委員会、中小企業支援プロジェクト、アルプストラストファン・ブレインワーキング、南信州 CMC 活用研究会、NPO 法人いいだ応援ネットワーク、などにも委員やアドバイザーとして参画しています。



(中心市街地活性化に関する
パネルディスカッションに参加)



(三遠南信しんきんサミット・
しんきん物産展の風景)

(4) 地域を越えた信用金庫同士の連携

2008年から、三遠南信地域（静岡県遠州、愛知県東三河、長野県南信州の3地域）に本店を置く8つの信用金庫が県境を越えて連携、協働する取り組みとして「三遠南信しんきんサミット」・「三遠南信しんきん物産展」を開催しています。

地域金融機関としての信用金庫の役割のアピールと、県境を越えた企業間交流によるビジネスチャンス創出を目指すもので、2008年は浜松、2009年は豊橋で開催され、今年度は当地域南信州で開催すべく企画を練っている段階です。

(5) 地域シンクタンクの設定

当金庫は、地域との共存共栄を図り、地域経済の活性化に資することを主眼に、2008年8月飯田市と地域活性化パートナーシップ協定を締結し、これに基づき飯田市との協働による地域シンクタンク「しんきん南信州地域研究所」が設立されました。

2009年5月には、三遠南信地域内の静岡県西部地域しんきん経済研究所（浜松信用金庫と遠州信用金庫との共同設立）、東三河地域研究所との連携協定を行いました。各地域シンクタンクとの連携により、共同調査や共同研究等を通じて、それぞれの地域への情報発信や提言等につなげていけたらと考えています。

III. まとめ

経営相談所の業務を通じて、信用金庫業界や他の金融機関だけでなく、地域の様々な機関や団体の方々と協働するという貴重な経験を得ることができ、大切な財産ともなっています。

地域活性化のカギは「人」にあり、「人」と「人」との交流が活力を生むものだと考えます。なにもしなければ縮小していかざるを得ないマーケットの中で、将来を見据えて、行政機関や経済団体等との連携を図りながら、地域マネジメントの一翼を担っていければと考えています。

飯田市役所から 飯田信用金庫へ

飯田市役所 企画部長

北原 重敏さん

飯田市は平成16年より、若者がふるさとに帰ってこられる地域づくりのための経済的自立を目標に、毎年地域経済活性化プログラムを策定し、経済の活性化と産業振興に取り組んでいます。この経済自立度は当時の県職員を中心に組み立てたもので、通商白書でも紹介されました。

この研究会に飯田信用金庫経営相談所の林さんも参加されており、現在の礎を築くのに貢献されています。プログラムを策定してから4年目になりますが、このごろの経済状況の激変もあり、金融機関との連携がより重要となっている中で、特に飯田信用金庫さんには飯田地域で金融の中心的役割を担っていただいております。

一昨年、飯田信用金庫と飯田市はパートナーシップ協定を締結し、地域シンクタンクである「しんきん南信州地域研究所」を設立しました。昨年は地域づくり部門と金融政策部門を設置しましたが、これに当たり林さんには信金側の中心人物として活躍いただいております。

22年度はその関係を一層強めシンクタンクの事業を充実していきたいと考えており、私たちは飯田信用金庫さんに、当地域自立のパートナー機関として、期待をより大きくしています。



(飯田市の花・ミツバツツジ)